Bridge ～市民病院と地域をつなぐ～

vol.5
2018. 12. 3

— 目 次 —

○トピックス
がん相談支援センターの紹介と取組み
○シリーズ チーム医療②
NST栄養サポートチームの紹介
○感染症管理センターからのお知らせ
当院における感染対策活動
○腎臓内科からのお知らせ
腎臓病診療のこつ（その1） CKDの重要性

発行：豊橋市民病院 患者総合支援センター

【トピックス】

がん相談支援センターの紹介と取組み

がん相談支援センターの紹介

当院は、厚生労働大臣から指定を受けた地域がん診療連携拠点病院です。患者総合支援センター内の「がん相談支援センター」では、患者さんやご家族が安心して治療や療養できるよう、がん相談員（医療ソーシャルワーカー、看護師）が無料で相談を受け付けています。

また、がんに関する情報提供や療養生活、就労、セカンドオピニオンに関することなど様々な相談や他院に通院している患者さんの相談、医療機関からの相談にも対応しています。

がん患者サロンの開催

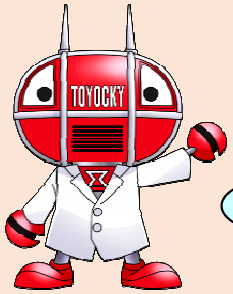
当院では、がん患者さんやそのご家族が交流する場として、「がん患者サロン」を開設しています。

○開催日時
奇数月第4火曜日 午後2時～午後3時40分
○開催場所
当院診療棟1階ATMコーナー横 他
○内容
①ミニ講座（30分程度の医療者による講演）
②お話し会（1時間程度の交流会）

がん治療経験者による相談会の開催

当院では、患者サポートのための研修を修了したがん治療経験者（ピアサポーター）による相談会を開催しています。治療や日常生活の悩みを治療経験者と直接相談できる場となっています。

○開催日時
偶数月第2水曜日
午前10時～正午
○開催場所
当院診療棟1階
ATMコーナー横



© toyohashicity.toyocky

がん患者サロンとがん治療経験者による相談会はともに、参加無料です。

問い合わせ・ご相談

○がん相談支援センター（患者総合支援センター内）
○0532-33-6290（直通）
○相談時間：月～金（休診日除く）午前8時30分～午後5時

詳細な日程や内容を、当院ホームページに掲載しています。是非ご参照ください。

【シリーズ　チーム医療②】
NST栄養サポートチームの紹介

NSTとは［nutritional support team（栄養サポートチーム）］の略で、栄養について専門性の高い医師・看護師・薬剤師・管理栄養士など多職種による医療チームです。
　栄養不良は治療や病気の予後に重大な影響を与えることが以前より指摘されていました。しかし、今までの医療では一部の医師や医療スタッフが栄養と治療との関連に注目している程度でした。
　入院や通院の患者さんの４０％以上に栄養障害が見られるという報告が相次ぎ、栄養療法の重要性が再確認されるようになりました。そのため患者さんの栄養状態を把握し（病気の状態、身長や体重など身体計測値、血液検査値等から）、栄養状態が悪いと判断した患者さんの全身状態を改善することを目的として、NSTが適切な質の高い栄養投与方法（経口栄養の支援・経腸栄養・静脈栄養など）を提言するなど、病院全体の中で横断的に運営・活動しています。

ＮＳＴチェアマン　一般外科第二部長兼
肛門外科部長　柴田　佳久

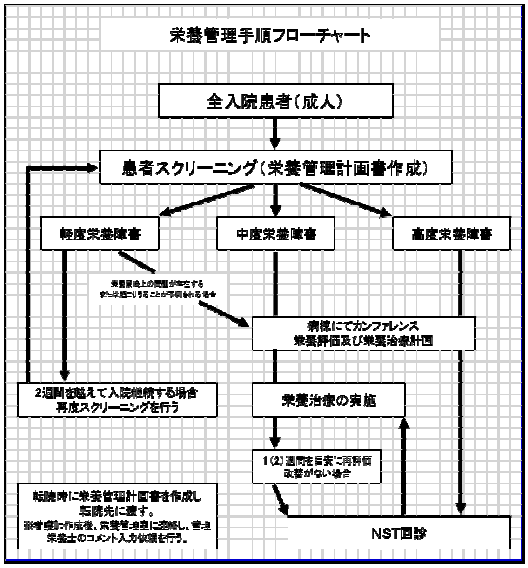
一般的な栄養評価の一例

SGA（Subjective Global Assessment）主観的包括的評価
- 身体計測値（身長・体重・体重変化など）
- 食事摂取状況
- 消化器症状
- 患者ＡＤＬ（日常生活活動強度）情報
- 疾病が必要栄養量に与える影響
- 身体所見等

ＯＤＡ（Objective data assessment）客観的評価
- **生化学的検査値（尿、血液、免疫能）**など
- **身体計測値（上腕三頭筋皮下脂肪厚（ＴＳＦ）、上腕周囲（ＡＣ））**など
- **間接熱量測定法**

豊橋市民病院では、可能な限り入院された全員の患者さんの栄養状態をスクリーニングするために、看護師、管理栄養士が栄養管理計画書を作成し、担当医師が内容の確認をしています。
（平成２９年度 作成件数２２,２３３件）

※参考
【入院基本料及び特定入院料の施設基準】の中に、「栄養管理体制の基準」が追加
1　入院診療計画の基準
2　院内感染防止対策の基準
3　医療安全管理体制の基準
4　褥瘡対策の基準
5　栄養管理体制の基準



栄養状態が悪い患者さんにＮＳＴが回診しています。

ＮＳＴ参加職種
医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・言語聴覚士・理学療法士・歯科医師・歯科衛生士・事務員

ＮＳＴと連携するチーム医療
- 嚥下リハビリチーム
- 口腔機能管理チーム
- 褥瘡対策チーム
- 呼吸ケアチーム

“日本静脈経腸栄養学会　ＮＳＴ専門療法士　実地修練認定施設”
ＮＳＴ専門療法士の受験要件の一つである「ＮＳＴ認定施設で４０時間の実地修練（ＮＳＴ教育カリキュラム）」を実施しています。
個人の申込は出来ません。申込病院と、豊橋市長との契約のもとに実施しています。延べ73名が研修を受けられました。ＮＳＴ専門療法士に合格され活躍されている方も多数お見えです。
「栄養療法を推進したい。」「ＮＳＴとしてチーム医療を根付けたい。」など病院として患者さんへのアプローチを考えている施設は、栄養管理室（ＮＳＴ事務局）にご連絡ください。

感染症管理センターからのお知らせ

当院における感染対策活動

病院には抵抗力や免疫力の低下した患者が数多くいます。このような特殊な環境では、原疾患とは別にさまざまな微生物による感染症を引き起こすことがあります。以前は院内感染と言われていましたが、在宅ケアでも同様なリスクを有しており、2004年にアメリカ疾病予防管理センター(CDC)より、両者併せて**医療関連感染**という用語が提唱され世界的に拡がってきました。

この医療関連感染を防止するためには、各施設での感染対策が重要となります。当院では医療関連感染を防止するために、感染症管理センターを中心として以下のチームが活動しています。

副院長兼
感染症管理センター長
浦野　文博

・ICT（院内感染対策チーム）

チームメンバーは医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務員で構成されています。ICT は“Infection Control Team”の頭文字をとった略語で、医療関連感染の防止活動をおこなっています。

ICTの主となる活動は、毎週1回の会議と院内ラウンドの実施です。会議では、感染症の定期報告に加え、現場の感染防止策について話し合います。ラウンドは毎月テーマを設定して感染予防策をチェックしています。テーマは標準予防策の遵守が中心です。また、現場で困っていることを確認し、対応策や改善策を考えていきます。

ラウンド風景

ICTはこんなことを目指しています。

“みんなが標準予防策を守れるような環境づくり”

・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）

チームメンバーは医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師で構成されています。ASTは“Antimicrobial Stewardship Team”の頭文字をとった略語で、抗菌薬を正しく使うよう支援するチームです。ここで用いられているStewardは「執事」を指し、主治医の裁量を活かしつつ、見落としや忘れている点をそっと支援するというニュアンスが込められています。当院のAST活動では、患者の現況や検査データなどを基に、使用している抗菌薬は適正かどうかを話し合い、支援が必要と判断した場合には使用方法について提案をしています。

ASTはこんなことを目指してします。

“抗菌薬の正しい選択・正しい用法の支援”

医療関連感染は、院内の対策のみでは解決できる問題ではありません。東三河の病院とも連携し定期的に合同カンファレンスを実施し、相互訪問評価もおこなっています。
在宅ケアにおいても感染対策は重要です。各施設でお困りのことがありましたら、感染症管理センターにご連絡ください。一緒に対応策を考えて参りたいと思います。

腎臓内科からのお知らせ

腎臓病診療のこつ（その１） CKDの重要性

今回から、５回程度（１０回を目指します）で腎臓病について連載させて頂くこととなりました。初回の今回は、ＣＫＤ（慢性腎臓病）の重要性について取り上げたいと思います。

そもそもＣＫＤとは、慢性腎不全とその予備軍と理解して頂ければ十分で、透析患者の増加が医療経済的な問題である他に、ＣＫＤがＣＶＤ（心血管疾患）の危険因子であることから注目を集めています。

腎臓内科部長兼
血液浄化センター長
山川　大志

図1にお示しします様に、世界中でＥＳＫＤ（末期腎臓病）患者が増加傾向にあり、日本では透析にかかる医療費が年間１兆円超と言われ大きな問題となっています。

図2からは、eGFR75程度以下から死亡・心血管死のリスクが高くなる事と、蛋白尿の増加に伴いそのリスクが一層高くなる事がご理解頂けると思います。ＣＫＤ患者の管理に難渋されましたら、ぜひ腎臓専門医へご紹介ください。次回からは、もう少し実践的な内容とする予定です。

最後に、日本腎臓学会から「ＣＫＤ診療ガイドライン２０１８」が本年６月に発刊されました。今回はかかりつけ医（非専門医）も利用者と想定して改訂されたとの事ですし、日本腎臓学会のホームページから自由に閲覧できますので、先生方の日常診療にどうかお役立てください。

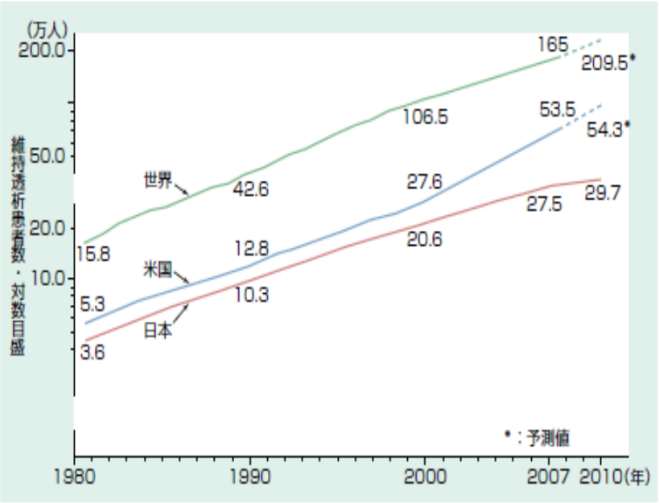


図１　世界の ESKD 患者数

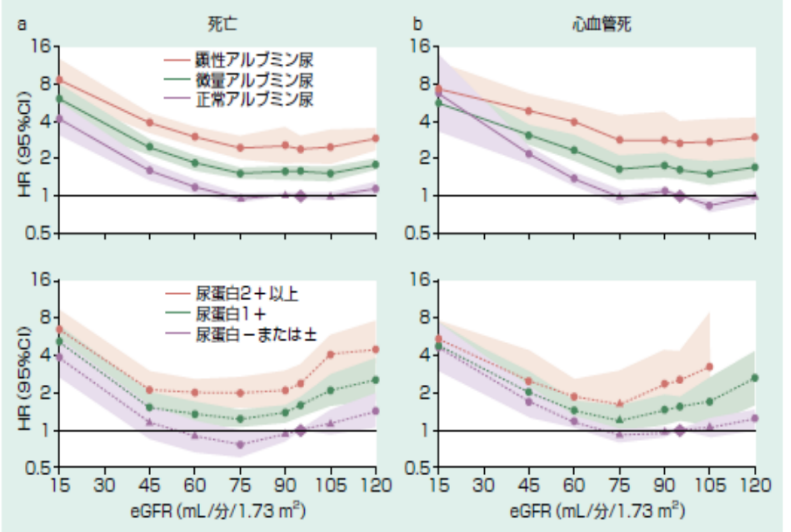
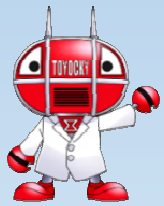


図２　死亡および心血管死の相対リスク

(Matsushita K, et al. Lancet 2010；375：2073-2081. より引用，改変)



© toyohashicity.toyocky

この広報誌に関するご意見・ご要望は、下記へお寄せください。

豊橋市民病院　患者総合支援センター

〒441-8570　豊橋市青竹町字八間西50番地　TEL　(0532)33-6111(代)　内線1491
FAX　(0532)33-6230